

## 私たちの住む沖縄の自然

小学校では、7～11月にかけて、6年生の本島北部への修学旅行を予定している学校が多いことでしょう。私たちの住む沖縄本島の自然のようすを少し紹介していきます。

私たちの住む沖縄県は、大小100あまりの島々からできています。そのうち、沖縄島は、沖縄県で最も大きな島で、琉球列島（九州の南端から、波照間島までの約1200kmにわたる範囲・動植物の分布の区切り）のほぼ真ん中に位置しています。

沖縄島の地質は、大きく3つに分けられます。

東シナ海から太平洋側に古い地層で、本部類帯（古生代から中生代にかけてたい積）、国頭類帯（中生代から新生代にたい積）、島尻類帯（新生代にたい積）と続いています。

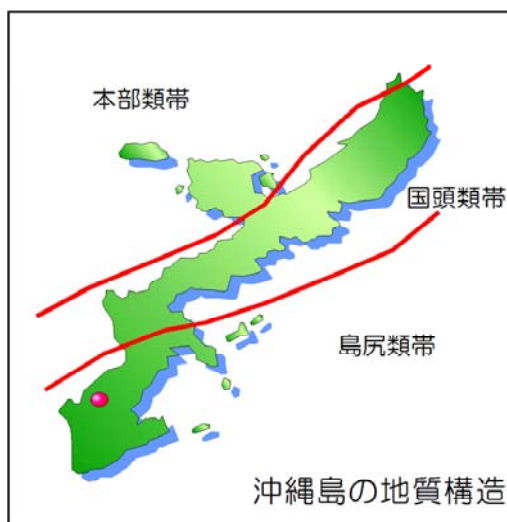
土の色や性質も違います。北部地域は、粘板岩が変化してできた土で、国頭マーシと呼ばれ、赤っぽい土、中南部地域は、石灰岩が変化してできた島尻マーシ（こげ茶っぽい土）と、ねん土質のジャーガル（灰色っぽい土）からできています。



北部の山のイタジイ林

那覇からバスに乗って、高速自動車道を通っていると、西原町や中城村あたりでは、灰色のジャーガルの土が見られます。これが、沖縄市の子ども国を過ぎた頃から、赤っぽい国頭マーシの土の色に変わっていきます。ぜひ、バスの窓から土の色を確かめてみてください。

土の性質は、母岩（ぼがん）によって決まります。それによって、生える植物の種類が決まり、それを食べる昆虫が集まります。さらに、その昆虫を食べる鳥や、小動物が集まってきます。土地によって、生き物の種類が変わる原因の一つなのです。



（文責：玉村かおり）